



湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所 属 専攻科

名 前 是永奈央

作成日 2023年9月26日(火)

1. 教育の責任

本学は大学の専攻科であり、学生は修了後、助産師の職に就く。私の職位は助教であり、専攻科での教育の中で主に授業の一部担当(ウイメンズヘルス、各科目の演習)と助産学実習における担当教員という責任がある。本学は、助産学実習Ⅰ(継続事例)、助産学実習Ⅱ(分娩期、産褥・新生児期、ハイリスク)、助産学実習Ⅲ(地域母子保健)、助産学実習Ⅳ(助産管理)の実習がある。実習には、実習目標と行動目標が設定され、この目標を達成するために学生たちは助産の知識、技術などの力を身に付けていく。私は学生7名(2グループ)を担当し、実習が円滑に進み、個々の学生が課せられた目標を達成できるように直接支援すること、学生が成長できるような促進剤となること、実習場所(病院、施設)を学習環境として整え、指導者と学生の関係を促進する潤滑剤になるようにしている。特に実習が開始した3週間は原則実習場に常駐または、毎日巡回に行き、目の前の現象を教材化すること、学生の思考過程を援助することを丁寧に行い思考の整理に努めている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

① 確かな知識と技術を持つ学生を育てる

助産学の中心となるマタニティサイクルでは2人の命・健康を優先に考える。このとき、母体、胎児・新生児の中で目に見えない変化を正しい、確かな知識を持って分析し、今後どのような変化をしていくのか予測を行い、正常やより良い健康状態に向けてケアをすることで健康を保証していかなければならない。分析するための情報は、問診、視診、触診、聴診など多岐にわたってあるが、その収集する技術が確かなものであると正確な情報が得られ、信頼あるデータに基づき分析できる。また、確かな技術に基づいたケアは、安全が保障され、対象者は健康に向かうことができるからである。

② 対象の想いに寄り添う、心を育てる

対象者は、様々な価値観を持ち、多様な社会によって現代は個人に合った生き方や方法を選べる時代である。対象者の希望や思い、これまでの生活を伺い、先述したような確かな知識と確かな技術を持って、専門職者として先の見通しを立てたケアの選択肢を提供し、対象者に自己決定していただくような対象者を尊重する学生を授業や実習を通して育てたい。

2) 理念をもつに至った背景

私が助産師学生だった頃、看護基礎教育課程で得た知識と助産学校の講義で得た知識を詰め込み、助産学実習で産婦を受け持たせていただいた。1例1例、全く異なるバックグラウンドを持つ産婦ばかりで難しさとする面白さを指導者から教わり、

介助例数を重ねるごとに点だった知識と知識が線で繋がったときは嬉しく、対象者の見えない身体の中で何が一体起きているのか？に対して理解が深まって感動したことを覚えている。また産婦に説明し、確認をしながら実際に行うケアによって産婦や胎児から直接得られる反応は助産の楽しさに気づかせてくれた。就職して、助産師の責務を実感したことで、学生時代に身につけた「なぜこの事象は起きているのか？」を探究していく更なる動機づけになった。

妊産褥婦は、自分や子どものために最善の選択を常にしている。その想いに揺れる対象者を何人も接してきた。分娩という刻一刻と状況が変化し、自身の身体に命の危険を感じるほどの陣痛に耐えながら、その選択に迫られる時もある。そのような時、対象者の希望や思い、これまでの生活をよく知る看護職がチームの一員として情報提供をしたり、そばで受容や共感したりすることで対象者が納得する場面に接してきたからである。

3. 教育の方法・戦略

ここでは、私の理念に基づき行なっている教育方法・戦略をまとめる。

専攻科に入学する学生は、看護基礎教育課程を修了している。看護に関する基礎知識はあると考えられるため、母性看護学やそのほかの科目で耳にしたことある内容を深掘りしていく。このため、これまで学生が努力して積み上げてきた学習を想起させ、繋げていくことが必要であると考えられる。

1) 学生の強みを活かし、知識をベースに考える力を養うための教育方法・戦略

一例を挙げると、私は、ウイメンズヘルスのプレコンセプションケアを担当している。

まずは、プレコンセプションケアという言葉聞いたことがあるか、発問して学生に自分達が考えていく課題であることを意識させ、学生には講義形式ではあるが、一方通行にならないように参加する授業であることを意識させる。次にプレコンセプションケアに関連するキーワードを挙げてもらう。これは、看護基礎教育課程で得た知識のため、想起するチャンスであるが、なかなか想起しづらいこと、人の前で発表することが恥ずかしかったり、勇気が必要だったりすることで発表しづらいこともある。だが、助産師になるためには実習で指導者や対象者に対して落ち着いて話す場面が多くなることから、その勇気や決断力も備えてほしい気持ちがある。このため、2～4名の複数で話し合い、少しでもリラックスできるように友人との会話の中で想起してもらう。一人の意見ならば「間違っていたらどうしよう、恥ずかしいな」、「私だけがそう思っているかもしれない」と思い、発表がしづらい。しかし、「どんな話をしていたのか教えてくれる？」と、会話のように話しかけると、複数の意見ならば「他の人もそう言っていた」、「みんなの意見を代弁するだけだ」と、思い沈黙がなく意見が出てくる。

まとめでは、課題を一つ出し、授業内で行なったことを複数で話し合い、再び発表する。出てきた意見をホワイトボードに分類し、私がそこに見出しをつけると、まとめの

要点の完成となる。学生たちは、自分達が授業に参加しながら学習に取り組み、考えたことが間違っていないと知ることで学べた感覚となる。人は、面白いと繰り返しやってみたくなることから、少しでも授業をきっかけに学習に取り組んでほしいと願っている。

2) 教材で視覚的に理解する

教科書や文献に書かれた内容を脳内でイメージ・映像化してわかるとよいが、想像することは限界がある。この時役立つのが、教材である。模型や実物を出し、手に触ってみて、その感触から想像する。2Dの資料よりも五感を刺激する。

4. 学習成果

学生から得られた意見は以下の通りである。

- ・看護での知識を思い出しながら取り組めて、学びやすかった。
- ・みんなで考えたことから、意見が出しやすかった。
- ・考えるから頭が疲れた。
- ・身近な課題であることがわかり、自分へのケアにも活かせる知識であることがわかった。など、意見をいただいた。

5. 改善のための努力

- ・疲れてしまえば、他の授業に影響してしまうため、考える内容のレベルを少し優しいものにする。
- ・シンキングタイムの時間を短くする。
- ・4.学習成果の意見から興味関心を持ち、学習するきっかけになることが聞かれなかったため、文献の紹介を多くし、学生がこれから学習する上で何を参考にして良いか示すことが必要だと考えられた。

6. 今後の目標

- ・2023年12月末までに授業国家試験出題に関連した内容の中で授業担当した内容を選定し、国家試験受験までに知識を定着させる。
- ・専門性を持ち、一部の授業担当だけでなく、1科目行える知識・技術を生涯身につけていく。

【添付資料】

ファイル名 プレコンセプションケア_専攻科_是永奈央